

「自己研修の進め方」事例の収集及び手引の作成

《補助資料 1 目次》

講義を受けての感想（「自己研修の進め方」アンケート）	1
講義「自己研修の意義と進め方」アンケート集計	2
小学校初任者研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧	5
中学校初任者研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧	9
高等学校初任者研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧	12
特別支援学校初任者研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧	17
中学校教職経験者5年研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧（養護教諭、栄養教諭含む）	20

平成27年3月

岩手県立総合教育センター

《空白のページ》

講義を受けての感想

研修名簿No. ()

性別 (男・女) 年代 (20、30、40、50)

次の項目について教えてください。

1 この講義で、自己研修（アクション・リサーチ）の手法を理解することができましたか。

(できた、ややできた、ややできなかった、できなかった)

2 自己研修（アクション・リサーチ）の手法を今後の教育活動で、いかしてみたいと思いますか。

(①ぜひいかしてみたい、②いかしてみたい、③いかすことができない、④全くいかせない)

3 2で①、②を選んだ方は、どんな内容で取り組んでみたいか、下へ記入してください。
③、④を選んだ方は、いかすことができない理由を、下へ記入してください。

4 自己研修（アクション・リサーチ）の手法について、もっと詳しく知りたいことがある場合、下へ記入してください。

平成26年度 講義「自己研修の意義と進め方」アンケート集計

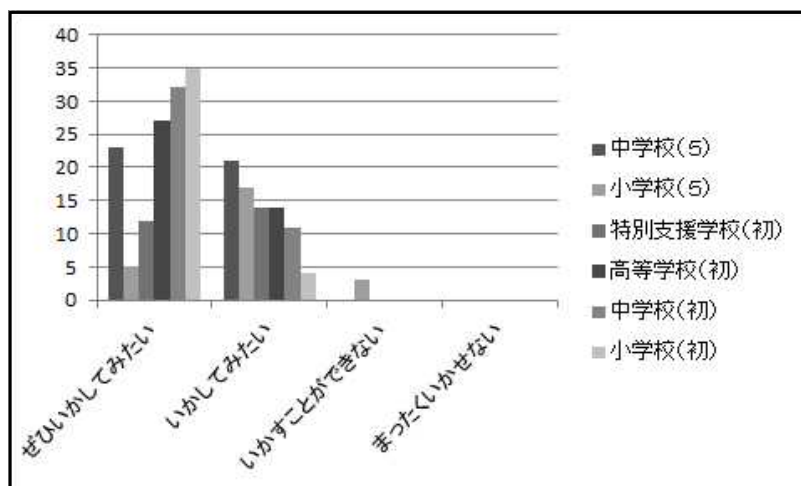
1 研修者

講座名	人数	備考
小学校初任研	39人	欠席（Ⅲ 1名）
中学校初任研	44人	欠席（Ⅱ 3名、Ⅲ 1名）
高等学校初任研	41人	
特別支援学校	26人	
小学校5年研	25人	
中学校5年研	44人	養護1名、栄養7名を含む

2 この講義で、自己研修（アクション・リサーチ）の手法を理解することができましたか。

単位：人（％）

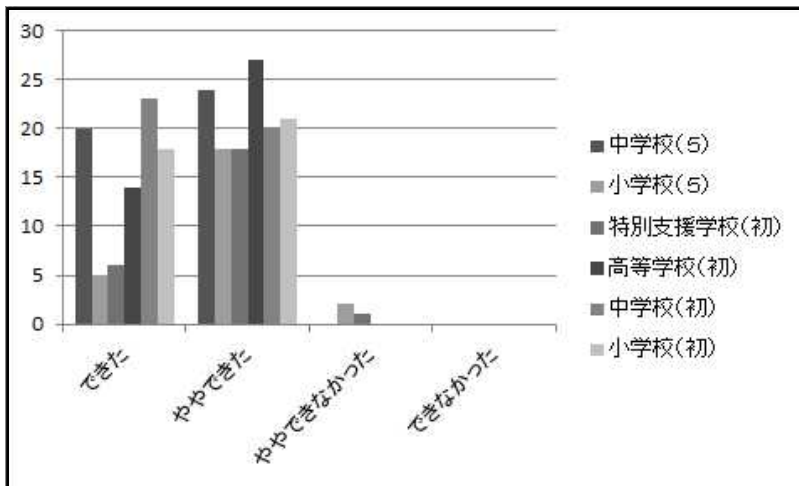
	できた	ややできた	ややできなかった	できなかった	無回答
中学校（5）	20(45.5)	24(54.5)	0(0)	0(0)	0
小学校（5）	5(20.0)	18(72.0)	2(8.0)	0(0)	0
特別支援学校（初）	6(23.1)	18(69.3)	1(3.8)	0(0)	1
高等学校（初）	14(34.1)	27(65.9)	0(0)	0(0)	0
中学校（初）	23(53.5)	20(46.5)	0(0)	0(0)	0
小学校（初）	18(46.1)	21(53.9)	0(0)	0(0)	0



3 自己研修（アクション・リサーチ）の手法を今後の教育活動で、いかしてみたいと思いますか。

単位：人（％）

	ぜひいかしてみたい	いかしてみたい	いかすことができない	まったくいかせない
中学校（5）	23(52.3)	21(47.7)	0(0)	0(0)
小学校（5）	5(20.0)	17(68.0)	3(12.0)	0(0)
特別支援学校（初）	12(46.2)	14(53.8)	0(0)	0(0)
高等学校（初）	27(65.9)	14(34.1)	0(0)	0(0)
中学校（初）	32(74.4)	11(25.6)	0(0)	0(0)
小学校（初）	35(89.8)	4(10.2)	0(0)	0(0)



4 どんな内容で取り組んでみたいか。

○小学校初任者

- ・自己研修として今行っているのは範囲が広く、あやふやになってしまうので、「授業」や「清掃指導」「給食指導」など絞って取り組んでみたい。
- ・学級の児童全員が授業に参加するためにはどうすればよいか。
- ・自分の考えを進んで表現し、友だちの意見を聞いて考えを深めることができる児童の育成。
- ・自分の考えを説明できる子どもの育成。
- ・児童の思考にそった板書計画とノート指導について取り組んでいきたい。

○中学校初任者

- ・展開の中でグループ活動のやり方に課題があるので、生かしたい。
- ・授業、生徒の学習意欲を生かした授業ができるよう努めたい。
- ・1つの資料を様々な角度から読み解く活動を取り入れる。
- ・4人グループ活動を有効に使って、数学が苦手な生徒の取組を活発にしたい。
- ・文法を理解し、正しく書くことが困難な生徒への対応。

○高等学校初任者

- ・生徒が主体的に学び、学習意欲を高められるような授業力向上。
- ・生徒がわかりやすく楽しいと思える授業づくり。
- ・話す・聞く領域における、積極的な言語活動を取り入れた修行への挑戦。
- ・生徒がわかりやすく楽しいと思える授業づくり。
- ・興味・関心のもてる教科指導。生徒主導型の授業の展開。

○特別支援学校初任者

- ・言葉の力を育てるための支援の工夫。
- ・コミュニケーション力を高めるための支援のあり方。
- ・生徒が身近に感じることができる授業づくり。
- ・思いを話したり、最後まで聞いたりすることでコミュニケーションの喜びや楽しさを実感できる。
- ・他害行動のある生徒への指導のあり方

○小学校5年研

- ・授業を通した話すこと・聞くことの態度の育成。
- ・子どもが課題意識をもつことができる導入の工夫。
- ・自分の思いや考えを豊かに表現できる学習指導。
- ・特別な支援が必要な子への効果的な対応の仕方。
- ・学級の子どもたちをつなげ、間違いをいかす授業。

○中学校5年研

- ・自己表現活動で、文法・表現でつまづく前に、アイディアのレベルでつまづく生徒への指導。
- ・グループ学習の改善。
- ・現在自己評価を毎時間書かせているので、そこから生徒の習得状況などを見取り、実際の授業にいかしてみたい。
- ・授業だけではなく、献立の作成などでも取り組み、よりよいものを提供していきたい

- い。
- ・指導を効果的にするための流れの確認、担任と栄養教諭のそれぞれのポイントとするところ、話し方の確認など、展開部分の確認内容を細かく掘り下げて確認する。
- 5 いかすことができない理由。
- ・自己研修が大切なのがわかりますが、時間がとれません。
 - ・いかしてみたいと思うが、実際はいかすことができないで終わってしまう気がする。
 - ・現在の職務に追われて時間や精神的な限界の中で新たに「自己研修」として大きく位置付けられると、胸をはってできます、やりますとは言えない。
- 6 自己研修（アクション・リサーチ）の手法について、もっと詳しく知りたいことがある場合、下へ記入してください。
- ・課題が多くある場合、一つ一つ達成していくべきか、それとも同時に進行していく方が適切なのか知りたい。
 - ・情報収集・予備調査をどのように行えばよいか。
 - ・1年間通じて取り組むことなのか、自分でどのように学校で進めて行けばよいのか知りたい。
 - ・実際の取組を見てみたい。
 - ・具体的に実際現場で役立つ資料の保存の仕方を知りたいです。
 - ・実際に自己研修のプロセスの一例を見せていただくとイメージがわかりやすい。
 - ・最後のまとめ方を詳しく知りたいです。
 - ・課題設定やP l a nシートのようなものを自分でももっていれば時間を見つけて自己研修に取り組みやすいと思った。
 - ・分析や省察の仕方として、授業を見てもらう、ポートフォリオを見る視点や注意すべき所などとしては、どのようなことが挙げられるか。
 - ・4月以降テーマが変更になったときの切り替えの仕方。
 - ・自分でテーマなどを決めて取り組もうとしたとき、方法や手立てが思いつかなかったときにどうすればいいのか知りたい。
 - ・テーマを決めるとき、どのように精選し、しぼっていけばいいのか知りたい。

No.	分類	課題(9月)	手立て(9月)	ゴール像(9月)	分類	課題設定(11月)	手立て(11月)	ゴール像(11月)
1	学習指導	1時間の内容を踏まえた振り返りを書くことができない。	毎時間振り返りの時間を取る。振り返りにどんなことを書けばよいのか、観点や例文を示す。導入で本時の課題をはっきりととらえさせることが必要。1時間の学習内容が「はっきりできるように」なったことを書かせる。	1時間の学びを生かした振り返りを書く。	学習指導	・児童が主体となって、互いに学び合う授業づくり。	・教師の発問と、それに対する児童の考えを照らし合わせる。 ・「そうなの?」「本当?」のように、子どもの発言が、授業内容の中心となるような言葉掛けの工夫。 ・ハンドサインの徹底 ・課題意識を高めるために	児童が互いの意見を受け止め、練り合いながらまとめたどりつく。
2	学習指導	自分なりの考えを言葉や図、操作などで表現することができる。	何をするのか、課題、手順、表現方法を明確にする。	自分なりの考えを言葉や図、操作などで表現することができる。	学習指導	・児童の発言に対し、褒めたり認め合ったりする言葉かけ。	・発問に対する答えの予想をし、それに対する言葉をいくつか用意しておく。 ・他の先生の授業を参観させていただき、褒めるポイントや観点、その言葉のかけ方を学ぶ。 ・自分の授業をみていただき、アドバイスをいただく。	「発表してよかったな」「次は発表したいな」と思い、積極的に活動したり、挙手したりする。
3	学習指導	全員の手が挙がる授業を目指す。	どんな授業でも自力解決や思考の場面をじっくり図工は好き、算数は嫌い	一人一人が自分の考え他者からの考え「わかった、できた」を実感する	学習指導	・他者の意見を認め合いながら、発言をつないでつくる授業。	・友だちの考えに対して反応するようにさせる。 ・子どもの発言やつぶやき、振り返りを生かす。 ・間違えからの学び。	他者の意見を聞こうとする、自分の中に取り入れてさらなる学びへとつなげることができる。失敗を恐れず、積極的に授業に参加。
4	学習指導	全員参加の授業(一人一人の学力の底上げ)	問題意識を高める具体的な課題設定 分かりやすい発問の精選 成功体験を持たせる。	全員が授業に参加する。		欠席		
5	学習指導	自分の考えをもち、相手に伝える。相手の考えを聞き、自分の考えを深める。	既習事項を出す。聞き方の指導。	お互いの考えを聞き、さらに自分の考えを深めている。伝えようとしている。	学習指導	・子ども自身がやりたいと思えるような活動を設定する。	・授業、方法、手立てを考える時間を作る。 ・生活: 尋ねられたときの切り返し。	やりたいと思うことを考える。自分の頭を使っている。
6	学習指導	子どもたち一人一人が、自分の考えをもちながら学ぶこと	導入で実物や具体物を提示する 子どもの身近なことを取り上げる ヒントカードを使う 簡単な問題は答えを確認しながら発表させる。 わからないことをみんなで考える。 導入での思考を設けて、自分たちの課題をもたせる。		学級経営	・子どもたちがお互いに認め合い、思っていることを相手に伝えられるようになるための学級経営。	・聞き取り、アンケートで子どもたち自身が今のクラスの状況をどう感じているか確かめ、全体でどういうクラスにしたいか話し合う。 ・友だちの良いところを伝える機会を設ける。 ・伝え方の練習 ・叱るは小さく、褒めるは大きく。	友だちのよさに気づき、自分のプラスにする。 何かあったときには、その場で解決し、仲が深まる。 相手を傷つけずに、自分の思いを伝えられる。
7	学習指導	振り返るときに自分がわかったもしくはわからないという現状を把握し、次から自分がどうしていきたいのか考えるための「振り返りの方法」	「わからないことが、わかった項目を振り返りに増やす。 「むむむ」と感じた人は先生優先チケットをわたす。	自分が今日の授業を通してどうなったかわかる。	学級経営	・互いのよさを認め合い、一丸となって活動できる学級の形-ポジティブな言葉が飛び交う学級経営-	・表現: 話す必要感、話して良かった感を感じさせる。 ・発言: 良かった時の発言を思い切り褒める ・褒められてうれしい体験を共有する。	自分の思ったことを表現できる人が増える。 相手の気持ちを考えて発言する。 褒められていることに多くが喜びを感じている。 互いのよさを尊重できている。
8	学習指導	楽しく学ぶために、子どもがひきつけられる教材の在り方。	実物を提示する	思ったこと、考えたことが活発に出し合える。 「学びあえた」「わかった」という達成感や満足感。	学級経営	・相手や場に応じた言葉遣いや、友だちへの励ましの言葉を心からかけ合える学級経営。	・丁寧な言葉をつかう必要性をもたせる。 ・教師自身が乱雑な言葉をつかわない。 ・友だちに言われてうれしい言葉、悲しい言葉を集めて掲示する。 友だちのことを思って声をかけた児童を大いに褒める。	からかいやいやなことを言われたと感じる子どもが減る。 いじめの未然防止。
9	学習指導	子ども同士での活発な話し合い	友だちの考えを聞いて、「わからないところがある人」と聞きそこを説明させる。		学級経営	・子ども同士が認め合い、励まし合いながらよりよい学級にしていこうとする態度の育成。	・授業の振り返りにおいて、友だちの発表や考えの良かったところを見つける活動 ・授業以外でも、さん、君、ちゃんと呼ぶ。 ・好ましい方法を一緒に考え、実際にさせてみる。 ・学級レク	学習において、「まちがいをしてくれたからこそ、正しい答えがわかった」「～さんの考え方がよくなった」と友だちを認められる。 言葉遣いがおだやかになる。
10	学習指導	子ども同士で思考を深められるように、教師がつながる全員参加の授業をする。	先輩の先生方の授業を見る 子ども同士をつなぐ発問を知る。 子どもをよく見る。(つまずき、理解度、思考が止まっているか。)	「わかった」の笑顔 たくさん頭を使ったことの充実感 わかったことをつかいたい。	学習指導	・友だちの考えをよく聞き、自分の考えと比較しながら学習を深められる子どもの育成。	・子ども自身が、友だちの考えを聞いて良かった、よく学べたと実感できるような体験をさせる。 ・発問の吟味 ・問題や課題提示の工夫 ・授業展開の見直し	子ども同士で課題が解決される授業 教師は子どもの発言をつなぐだけ。 相手の考えを聞くよさを知り、自分と比べてどこが同じでどこが違うかを見極め、その上で自分の考えをより深められる児童。
11	学習指導	自分の考えを進んで表現し、友だちの意見から自分の考えを深めることのできる児童の育成。	導入で学習意欲がもてるような教材、発問 自力解決→ペア、グループで交流→もう一度自分で考える。 みんながわからない問題。 友だちの考えを説明 雰囲気「まちがいは宝物」		学級経営	・児童が主体的に活動し、相手の意見を受け止めることができる学級経営。	・「発言したい」と思うような雰囲気作りのためにうれしい言葉といやな言葉を考える。 ・発言の目標を設定し、週ごとに振り返り。 ・毎日の児童の記録を取り、良かったところや指導したところをためる。 ・教師が発言に対し、しっかり評価、間違いも受け入れる。	自信があまりなくても手を挙げようとする児童。 間違えにも「いい考えだね」「どうしたらいいかな」などプラスの声がけができる雰囲気
12	学習指導	自分の考えや意見を書きまとめたり、話すことができる子どもを育てる。	「賛成か反対」や「はい、いいえ」など二択の発問をし、自分の意見を理解させる。 語彙を与えたり、例文を提示する。 発表できることの大切さ、話し慣れるようにあてる。		学級経営	・学習・学級活動に対し、前向きな気持ちで取り組もうとする児童の育成。	・意欲的になれない理由を聞くorアンケート ・原因に合わせて対処していく。 友だちの目が気になる。 授業がよく分からない	マイナスな発言だけではなく、プラスの発言が徐々に増えていく。 やる気がないように見える後傾姿勢から、取り組むものに向かう前傾姿勢へと変わりはじめる。

13	学習指導 学びたい、話したいと思える ペアワーク、グループワーク のある授業			学習指導 子どもたちの思考をうなが す、発問の吟味と実践。	・毎時の中心発問をメモに残 す。 ・自分の授業を映像やボイス レコーダーに録音し、客観的 に見る。 ・授業づくりノートをまとめる。 ・書籍等で参考になったもの をコピー・ファイリングする。	発問に対して、考えを深めて いる子が増える。 発展的な問題への正答率も 上がる。 互いの考えをぶつけ合い、練 り合いの授業を作り上げる子 どもたちが育つ。
14	学習指導 児童に見通しと意欲をもたせ る導入の工夫。	教材教具の工夫 既習の内容の整理をするこ と	子どもたちが、見通しをしっ かりもつことができ、終末に はできた実感をもつことが できる。	学習指導 児童が学習の見通しをしっ かりもたせるための工夫。	・見通しをもたせるための導 入の工夫。 (具体物やICTの活用) ・単元や教科を絞り取り組 む。	学習したことを活かして、ス ムーズに学習活動にうつれ る。
15	学習指導 子どもたちがドキドキ、ワクワク、 やってみようと思わせる ような導入づくり	視覚に訴える導入づくり 言葉、紙、板書だけでなくデ ジタル教材も使用 発問の仕方や出す順番の工 夫	目をきらきら輝かせ、「学び たい」「知りたい」というこ とが、姿勢からも発言からも伝 わる。 教師からなげかけた疑問と 子どもたちからでる疑問で子 どもたちの頭の中は「ワクワク ・ドキドキ」でいっぱい。 自分なりの目標	学習指導 ・日が経つことに見返したくな るノートづくりへの挑戦-思わ ず見返したくなる・ノートが財 産になる・価値あるノートを求 めて-	・できるだけ板書計画とノート 計画を立て、この二つを連動 させる。 ・文献で得た実践例をクラス の実態に合わせて実践して みる。 ・ノートづくりに関する決めご とを作る。 ・よいノートづくりをしている 人のノートは進んで紹介す る。 ・「見やすいノート」「見返した くなるノート」とは何かにつ いて、子どももその必要性を考 える時間を設ける。	思考の流れに沿ったノートに 授業後なっている。 わからない問題にぶつかっ たときに「じゃあノートに振り 返ってみよう」とノートをめくる 児童が増える。 先生の言うとおりにノートを 書くだけでなく、ここが大切だ と自分が思ったら書きたくな るような、能動的・創造的な ノートづくりを子ども自身がで きるようになる。
16	学習指導 課題解決のための、明確な 発問をすること。	自分の考えを認める学級経 営 提示(モデルプラン)	一人一人が学ぶという楽しさ を感じることができ、「わかっ た」「もっと知りたい学びた い」という気持ちをもつこと ができる。 子どもたちの活発な意見によ り、自分たちが作る授業だと 感じさせられる。(満足感の あること)	学級経営 ・互いに認め合い、高めあう ことのできる学級経営。	教師自身が子どもによさに 気づき褒める。友だちがした 発言や行動に対してどう考え るか、どう思うかを聞いて他 人をよく見ていないと答えら れないような状況を意図的 につくる。 固定されたグループだけで はなく、いろいろな友だちとふ れあうこと、新たなよさに気 づくかも知れないので、いろ いろな子どもたちと交流させ る。	互いの話を聞き合い、自分 の考えや行動に取り入れれ もつと上を目指そうと目標を もち進むことのできる児童を 目指したい。
17	学習指導 学び合いの力を育てるため には 友だちの考えを聞いて、自分 の考えを深めたり広げたりす る力を育てるには	わからない派を支援する。 ペアで交流 黒板に書いて、それを他の 子が説明する		学級経営 ・一人一人を認め合い、お互 いに気づき高め合っている 学級経営への挑戦	アンケートによる子どもの意 識調査 めあてチェックシートをつく り、個人でも反省をする。 まずは教師から毎日一人一 人を大切に声かけ、言葉 掛けをする。 学習の振り返りで、他児童の ことを認めるものがあれば、 取り上げて全体のものにす る。 全員遊びの日、号車遊びの 日がいなくても、ゲームなど他 者と関わる活動や時間を増 やす。	
18	学習指導 自分の考えを伝え、友だちの 考えと自分の考えを比べな がら聞き、学び合うこと	自分の考えが認められる学 級経営 既習事項の定着のために個 別 グループで学び合うためのモ デル提示	自分の考えをもつことができ、 それを相手に伝えたり、 友だちの考えと比べたりして 学びあえる子ども	学級経営 ・お互いを認められる学級経 営。	関係のよくない子たち同士の 理解 1日の行動の記録、チェック カード 授業などで活躍する場をつ くり称える ユニバーサル授業などを取 り入れ授業に参加できるよう に 保護者と連絡を密にし、課題 を共有する。	どの子とでも協力でき、わか り合える人間関係
19	学習指導 自分でわかったことを文章に 書き起こす。	子どもにわかったことを聞く。 わかったこと気づいたことを 書かせる。	学習することは、新たにでき ることを増やすという認知 自主的な力を伸ばし、他の分 野でも大いにいかせる人とな る。	学習指導 ・一人一人の課題を考え、学 習活動や学校活動で取り上 げてゆく。 ・お楽しみ会を更に楽しませ ていく。	課題解決させよう、活動を 取り入れていく。 だいたいの条件を決めてあ げる。	一人一人が自己表現できる クラス又は一人一人となる。 成功体験を自らの力で培え る。
20	学習指導 意見交流のよさに気づかせ、 交流を活発に。 自分の意見をもってみんなと 交流するのが楽しいと思える ように。	発言した人に対する認める、 温かな反応を豊富にしてい く。 反応は決められた言い回し にとどまらず、自然とこぼれ てくるものが増えるといい。 自分はこう考えたけど○○さ んはどう？と質問してみる。 ねらいをもったグループワ ーク。	話して学び合いたいと思える ように。	学級経営 ・困り感の強い男の子が、学 級の中で人との上手な関わ り方を少しでも身につけ、ク ラスのみんなも安心して過 せる学級経営。	気になる行動、それに対する 支援や指導、反応やその後 の様子 クラスの子たちと、その子 の関わり方を話し合う。 興味をもてそうな授業の組 み立て、ワークシート。 がんばったことが目に見える 評価シート。	少しでも周りの子と同じよう に座って学習に取り組む。 周囲の子たちとの前向きな 関わり方が増え、互いに安心 して生活できるようになっ ていく。
21	学習指導 学習に対する意欲が高い 子、低い子の差	導入や活動に入る前の指示 の改善 学力の高い子を生かして理 解の遅い子の定着を図る。	子どもたち同士で授業をわ かると、説明したり、わか らないから教えて、と言ったり して授業を解決し、全員が学 習内容を理解する。	学習指導 ・学習意欲の差が激しい児童 たちが意欲を持って取り組め る学習活動(算数)	自分の発問・板書が明確か 確認。 まとめを穴埋め。	自ら進んで考える。 わからないことを友だちの 話を聞いてわかろうとする。 授業で学んだことを最後に話 すことができる。
22	学習指導 導入の場面で、子どもの中 に問いを生むこと。	子どもの実態把握 教材のつながりを見る		学習指導 ・子ども自らが課題を設定 し、学習のまとめをつくりあ げることができる授業の構 想。	アンケート分析 プロトコルを分析・考察 授業の再構想 分数学習の終了時にアン ケート インタビュー、プロトコルから 原因の特定	子ども自らが課題を設定し、 学習のまとめをつくること ができる。

23	学習指導 自分の考えを説明することに抵抗感がある。	キーワードを示す モデル文を示す 自力、ペア、全体などステップをふむ。 友だちの考えを説明する。	自分の考えを説明できる。 友だちの考えから学びを深めることができる。	学習指導 ・自分の思ったこと、考えたことを意欲的に発信できる児童を育てたい。	板書の工夫 子どもが意欲的になる導入・教材教具の工夫 習熟の時間を確保して、個別支援、できた子への課題、オリジナル問題をつくり挑戦させる 振り返りの時間を作る 意欲を引き出す魅力的な単元構成	勉強が好き、授業が好きという子どもになる 1時間の授業の中で、できるようになった、わかったという実感をもつことができ、学習意欲が向上する。
24	学習指導 学級全体の中で、差ができてしまっていること。	導入の段階で、だれもがやる気に満ちる 二極化	学級全体で、できた、わかったを実感している。 認め合う場をつくり、自信をもたせる。	学習指導 ・全員がわかる、できるようにするための授業づくり。	学年でレクを行う。 発信しやすい環境づくり。 発言を認め合う。	いつでも、どこでも、だれにでも自信をもって自分の思いを発信できる子。
25	学習指導 自分の考えを分かりやすく伝える児童を増やすためにはどうすればよいか。		自分の考えを伝えてすっきりとする児童。 伝える内容を考えることで理解を深める児童 伝えることで友だちの役に立って実感をもつ児童。	学習指導 ・自分の考えを明確に伝える児童を増やしたい。	特定の教科において、説明することを日常的な課題や活動として設定する。 説明に適した学習場面の選定	「説明したい」「教えたい」「伝えたい」という思いをもつ。 「説明してすっきりした」「伝えるって気持ちがいい」と感じる。 他者の説明のよさを見つけ認められる。
26	学習指導 低位の児童がついていけない授業になっている。	「わからないこと」を共有し、学習課題とする。 教え合う活動などを積極的に取り入れる。 「がんばって考えたけど、途中でまじでできなかった子」を積極的に取り上げ、全体の場でのスタートにする。	「〇〇さんのおかげでわかった」という子と「〇〇さんに教えてあげることができた」というように、クラス一体となって授業に取り組む子どもたち。	学習指導 ・低位の児童も最後まで授業に参加することで、どの子にとっても実りある45分にするための授業づくり。	導入を、どの子もひきつけられるものにする。 ペアやグループを効果的に組み込む。 教師が「見とる」場面を明確にする 低位の子の「わからない」を全体で共有する工夫 教師が赤ペンなどで支援する。 低位の児童のノートを継続的にチェック。 家庭学習ノートの細かな指導 授業アンケートをとる。	学力低位の児童も積極的に授業に参加する。 上位の子が、低位の子に教え合う集団に育てる。
27	学習指導 授業に対する意欲が低い。		意欲をもって授業に挑んでいる。	学級経営 ・児童一人一人が所属感を持ち、お互いに認めあえる学級経営。	教師が子どもの言葉や行動を受け止める。 子どもの体験を増やす。 客観的に考えさせる。 教師が手本になる。	ふわふわ言葉が増える。 他人の言葉や行動が受け入れられる。
28	学習指導 自分の感想、考え、思いなどを恥ずかしながら自分なりの表現で積極的に話す。	手のあげ方(ハンドサイン)教材を身近に、実態に合わせて、授業も見通しを立てられるように 思いを伝えられる言葉をみんなで探して提示する。	積極的に発言したがる。 いろいろな言葉をつかって、自分なりに話そうとする。	学級経営 ・全員が、大きく、はっきりとした声で、意欲的に発言しようとする学級。	単元の第一で、最終的なゴールをみんなで共有する。 声のものをさしを徹底して意識させる。 全校での取り組み「あいさつ名人」を1か月毎にシールなどをとりためて、一番多い人があいさつ名人になれるようにする。	進んで考えて、それを他の人にも聞いてほしいと思う。 自分の声についてすぐに振り返って、適切かどうか判断できる。 みんなにとどく声で話すことの気持ちよさや大切さに気づく。
29	学習指導 全員が「わかる」授業	自信がもてる工夫 少しでもかけるようなヒントカードなどの準備 グループ学習で役割を決める。 高位の子が低位に教える。 絶対にできる問題も用意 子どもの身の回りの具体物の準備		学習指導 ・達成感を感じ、考えを広げ、深まることができる学習展開 -児童の思考にそった分かりやすい板書とノート指導-	板書計画(毎時間) ノートの完成形の明確化	全員が問題(課題)を解決
30	学習指導 意欲や楽しみをもって課題解決にむかう児童	児童理解と教材研究 自力解決前までの手立て	意欲的に課題に取り組み自分の考えをつくり、他と交流し認められ、終末に自分について力がわかり、満足感を味わうことができる。	学習指導 ・自分の考えをもち進んで表現しようとする児童の育成。 -教科指導の中で-	児童意欲的に取り組もうとするような課題設定・発問 発表のさせ方の工夫 児童の発言に必ず評価をする	自分なりの考えをもち、それを進んで話す児童。
31	学習指導 友だちの考えや発言を聞いて、そこから解決しようとしていない。	広げる すすませる 出された考えについて		学習指導 ・本時の学習で学んだことを表現できない。	穴埋めにする 書き方を教える、書いた子の紹介を繰り返す。 十分な時間を取る テーマを示す。 板書を見やすく、キーワードを残す。 掲示に残す。	学んだことを表現することができる。 ノート、発言、つぶやき
32	学習指導 児童の表現力向上のために、「表現手段」と「学習課題」の2本立てで進める。	書く力や表現手段を子どもたちに身につけさせるための手順。 どの単元でどのような表現が有効か、教材研究どの部分が苦手か。	しゃべってよかった。	学級経営 ・「友だちや先生の話聞く力を身につける」ことからコミュニケーション能力を高めたい。	気になる児童の「がんばりカード」を継続的に実施。 エンカウンター、SSTの実践を参考に学級で継続的に取り組む。 授業中での意欲づけを行う。 反応の練習 掲示物の作成	気になる児童が少しずつ落ちついた態度・聞く姿勢をできるようにする。それによって、学級全体に雰囲気が出てくる。 あいづち、うなずきを自然にできる。 相手のことを思いやる暖かい学級の雰囲気。
33	学習指導 本時の課題に対してゴールがわかっていない。	今日の授業で、自分は何ができるようになりたいのか、わかるようになったらかを問う。 課題解決のために必要な要素。	授業後に、自分は何をわかったようにならなければいいのかわかる。	学級経営 ・学級への所属感を高め、互いに認め励まし合える学級づくり。	「学級みんなで挑戦」ということを意識させる環境づくりや声かけ 取り組んだことで得られた成果や気持ちを実感させる。 励まし認め合うための授業内容。	自然と友だちにかける言葉があたりかくなる。 みんなでやろうとする意識、言葉が増える。 笑顔が増える。
34	学習指導 主体的に学ぶことができない。	手を挙げていない児童にも指名し、緊張感をもたせる。 スモールステップで授業を進める。 課題解決の喜びを知る。	主体的に学習に取り組み、進んで課題を解決する児童。	学習指導 ・主体的に授業に参加しようとする児童の育成。	問題をスモールステップにする。 自己解決の時間に、自信がもてるように個別に声がけをする。	わかる問題や言えそうな答えなどは挙手したり発言することができる。 わからない問題や、どうしてもできないことなどは、友だちの話や教師の説明などをうなずきながら聞くことができる。

35	学習指導 子どもたちの意欲が高まる導入。	できることを書くというのをやめる。 前の学習を生かして。	自分なりの目標をもって授業に挑める。	学級経営 ・子ども同士が認め合う学級	子どもたち一人一人に活動の場を与える。 全員が「学級のため」何かする。 言葉の手帳を活用する。 励ましの言葉をかけている児童を紹介。 どの子もいっぱい褒める。 友だちを傷つけないというルールは必ず守る。 トラブルは即日解決する。	あたたかい言葉をかけられる。 友だちの話をよく聞く。 何か起こってもどうにかしようとする。 笑顔が増える。 違いも認めあえる。 人のよいところを見つけられる。
36	学習指導 友だちの考えを聞き学び合う。	何を聞くのか、きちんと指示を出す。 聞いた後で何か質問する。 比べながら聞く。		学習指導 ・学びを深めるグループ活動の在り方。	交流のねらいを明確にし、適切な発問を行う。 交流したことで、学びが深まったことを、児童が実感する経験を重ねることで、より学びを深めるグループ活動を展開させることができるのではないか。	自分の考えを相手に伝えるだけでなく、交流をとおして、学びを深めることができる。
37	学習指導 導入時における子どもたちの意欲づけについて。	子どもたちに事前アンケート。 他の先生から情報を聞く。		学習指導 ・児童が興味関心をもって取り組むことができるような言語活動の工夫、改善を図る。	観察し、児童の好む活動。児童に選択させる場を作る。 見通しを提示し意欲をもたせる。	
38	学習指導 子どもが主体的に課題をもっていない。	前時のつながりを明確にし、既習事項と比較して課題を見つける。	子どもたちが、「知りたい、学びたい」と感じ、主体的に課題をもっている。	学習指導 ・児童が積極的に意見を交流しようとする授業づくり。	導入の工夫。 間違えられる雰囲気。 シンプルかつ一つの発問表現力を高める言語活動を設定。	めあてに対して問題意識をもっている。 どの子も自分の考えを積極的に述べている。 友だちの意見に耳を傾けている。 互いのよさを認め合っている。
39	学習指導 子ども同士の学び合いが、授業を成り立たせているといえる授業展開や環境づくり。			学級経営 ・自分の気持ちを相手に伝えるための「思いやり言葉」探しと実践。	もめ事が起きたとき、相手の気持ちを考えさせる。 乱暴な言葉が耳に入ったら、全員で共有する。 1日の最後に振り返る。	相手に対してマイナスな感情を抱いたときに、どんな言葉をつかえば、自分の気持ちを素直に、思いやりの観点からずれずに伝えることができるか考えられるようになる。 相手の立場に立てる。

分類	課題(8月)	手立て(8月)	ゴール像(8月)	分類	課題(11月)	手立て(11月)	ゴール像(11月)
1	学習指導 pattern practic を面倒がる 子がいること	毎回ペアを変える 4人グループで取り組む	ペアやグループワークをやる ようになる パターンを覚えて文法が身 につく	学級経営	自ら目標を設定し、それに向 かって意欲的に取り組む活 発なクラス経営をしたい。	学級目標を時々反省する機 会を設ける。 学級目標を振り返る。	あきらめない 現状で満足しない 新たな目標を立てて
2	学習指導 学ぶ必然性を生徒がもった 上で、学習に入っているよ うな工夫	単元の見通しが持てるプリン ト	毎時間の最後に生徒が力が ついたと実感できる 単元の目標に向けて一歩一 歩近づけると自覚できる 1年で学習したことを覚えて いて、2、3年で活用できる。	学習指導	グループワークを通して、自 分の考えを広げたり深めたり できる授業の工夫。	意見の深まり、広がりを自覚 できるようにする。 グループを席順ではなく目的 に合わせたものに 生徒をモデルとして全体で 一つの意見について考える。	積極的に自分の考えを発表 しようとする、他者の考えを 聞こうとする生徒。 根拠をもとに自信をもって自 分の考えを言える。
3	学習指導 全員で互いの意見を交流さ せたい。	わからない子、苦手な子へ のアプローチ どんどん発言させる	わからない生徒が「ここはど うして」「ここがわからない」と 言ってくる 対立意見も出てくる	学習指導	数学の授業において、定着 を図らせる。	毎時間の指導路案の作成・ 集積 定期的な小テストによる定着 の度合いをチェック。 まともまでの流し方による、 時間の差の比較 授業スタイルを変えて行う	わかったつもりからわかつ た、できた、おもしろいかもへ の褒めや励ましを教員が感じ る。
4	学習指導 課題にしっかりと向き合う生 徒と向き合わない生徒がい る	話の聞き方 用語など専門的な言葉の理 解度 生徒の立場になった授業の 流れ	話をしっかりと聞ける生徒 課題に意欲的に取り組む生 徒	学習指導	学習規律を重んじながらも、 生徒の興味関心を刺激した 学習課題の設定。	既習事項の確認や似たよう な活動経験の有無を調べる アンケート 学年全体で取り組む学習規 律の約束ごと、授業展開の 方法	落ち着いた学習規律の中 での授業展開 生徒たちの安全でありなが らも、意欲的、活発な姿
5	学習指導 学習に必要な資料を自ら考 え、選択しながら、思考をま とめる力を育むこと	資料読み取りにかかる時間 を確保して、視点を与える 繰り返しにより経験値を高め る キーワード抜き出しから始め る	「なぜ自分はそう考えたの か」その論述を示しながら表 現できる	学習指導	生徒たちが論理的に表現す ることを意識化できる指導の 実践 -社会科指導法の改善から-	論理的な話し方のパター ン 話し形を示し、それを常により どころとする。 表現の発問に対し、どの話 形を使うのか、表現の道筋を 意識させる。 授業内だけでなく、テスト 問題でも、論理的な道筋を 明らかにできる作題にする。 ペアワークなどで、表現機 会を増やし、相手を納得させ るトレーニングをする。 他教科との連携。 発問時の文言の吟味。	あらゆる場面で、道筋立っ た伝え方を意識できる姿。
6	学習指導 presentationで上位層、下位 層のレスポンスに差がある	時間の確保 上位層を育てる ペアで交流	上位層から下位層への教え 合いにつながる 下位層のレスポンスアップ 授業全体の活性化 展開へのつながり	学習指導	「聞く、話す、読む、書く」の 言語習得の流れに沿った指 導の仕方	聞く、話す、読む、書くのバ ランスをとる 生徒の実態把握のために、 机間指導の充実化 教員間でも連携する 家庭学習のチェックを行う。 上位層が下位層に教えあ う書いたものへの評価	話せることが書けること 一人ひとりが取られている 授業の中の一人なんだと いう実感がもてる。 家庭学習取り組みの向上 英語を楽しみ、点数アップ
7	学習指導 自分の言葉で振り返りをする		数学的用語を使って、具体 的な内容で振り返りをする	学習指導	課題からまとめ、振り返りま での構造	構造的な板書 評価問題と振り返り 見直し(1時間の)	
8	学習指導 全員参加の授業	グループ、ペアの組み方を 意図的に 上位層に「教える役割」を与 え手助けしてもら う 個々に役割を与えみんな必 要な存在という意識をもたせ る	「まずやってみよう」と思 える 自分の存在価値を授業内 でも感じられる	学習指導	自分のことや自分に関わる 身近な事柄についての考え を、自らの言葉で表現させる 指導法の探求	毎時間必ず一作文で自分の ことについて話させる一書か せる 実践的な場面を授業の中に 設定 他者とかかわりながら授業 教師の見直しある授業	自分の成長を実感できるよ うになる。 日常生活など国語の授業以 外でも使える力を身につけ ていることわかる。 新しい気づきがあり、学び を実感する。
9	学習指導 興味関心を引き出す導入の 工夫	身近なものを導入で使う 視聴覚教材を使う	スムーズにやる気を持って 課題に取り組むことができる 授業が始まったらまず教師 に注目する	学習指導	生徒が学びを実感し、国語 の学習の必要性を感じる指 導法	単元の見通しをしっかりと もたせる。 得た知識を活用する場面で 毎単元設定する 他者との交流場面を有意義 なものとする	自分の成長を実感できるよ うになる。 日常生活など国語の授業以 外でも使える力を身につけ ていることわかる。 新しい気づきがあり、学び を実感する。
10	学習指導 学習課題への意識	生徒の疑問から学習課題を 設定 終始課題を意識した発問	その日その日の学習内容の 定着 わかったという達成感 考える力	学習指導	生徒の学習意欲と理解を向 上させる指導法	視覚にうつたえる授業 生徒のなぜに基づく授業 「この人の話は聞こうかな」と いう関係作り これはできるという達成感、 成功体験 目標点数やテスト結果の詳 細など、クラスで一丸となれ る機会 ほめる 授業規律	身の回りの科学的な疑問を もつ(意欲向上) やればできる。 「理科は嫌い」をなくす 自ら勉強しようという意欲
11	学習指導 生徒が自分の考え、思った こととまとめなど書く力をつける	キーワードを与える 全員が書くまで待つ 自信を付けさせる 資料などの読み取る視点 を与える	短い時間で書き取ることが できる 1時間で学んだことを自分 のものにできる	学級経営	切り替え 全員が一つの目標に向かっ て取り組む 給食・清掃・係の仕事全員 がこなすことができない	各班で役割分担を決める。 班長のリーダーシップを育 んで、クラスでの存在感・所 属感が生まれる。 日々の切り替えをしっかりと 行わせる。 他のクラスの様子を見る・知 る・聞く 清掃の仕事を増やす	学級全体が与えられた任 務・役割を果たしていくこ とで、クラスでの存在感・所 属感が生まれる。 同じ意識をもった集団とな り、連帯感が生まれる。 全員に公平感が生まれ、他 者を批判することが少なくな る。
12	学習指導 生徒の発言をもとに、学習課 題にせること	発問した後にねばること、待 つこと グループで話し合うこと 苦手な生徒が教えてもらう	苦手な生徒も、得意な生徒 も、全員が全員で学習してい る授業	学級経営	生徒一人ひとりが所属感、 自己存在感を感じ、生活で きる学級経営。	あたりまえのこと、小さいこ とにでも感謝の気持ちを伝え る。 人間関係づくり エンカウンターを積極的に 話し方、聞き方の指導	よい人間関係をつくること ができれば、環境が生徒を 育てる。 能力の低い生徒もがんばれ る(自己存在感の向上) 授業中も失敗を恐れず発表 自分も相手も大切に、気 配りができる。
13	学習指導 1つの資料をいろんな角度 から分析する	グラフのたて軸とよこ軸の確 認 一つのグラフかの確認 「何が」「どこで」「どのよう に」 作られているかカテゴリーご とに考えて書く	学習内容を様々な角度から 深く考えられる 「もっと知りたい」と思 える	学級経営	一人ひとりのお互いのよさを 認めあえる学級をつくりた い。	叱るとほめるのタイミングを 見逃さない。 どんどん生徒に願う。 先生方の生徒のかかわり方 を学ぶ。 指示を短く、多くの生徒が参 加し、考えられる授業をつ くる。	自分も相手も大切に、気 配りができる。 認めてくれる、見てくれる 人がいるという安心感をも って生活することができる。 授業や活動へのモチベー ションがある。
14	欠席			学級経営	自分たちで動けるクラスの経 営 -リーダーを中心としたクラス にする-	リーダー育成 フォロワーへの指導	
15	学習指導 みんなが参加できる授業	ランダムな席で指名する 少し待つ 自由な発言をしてもらう	発問に対する答えや実験の 考察を一人一人が自分の言 葉でまとめてノートに書くこ とができる	学習指導	どんな生徒でも分かりやすい 授業	導入を工夫する。 まとめの時間をちゃんとと る。 指示は明確にする。	みんなが一つのことを考 えて取り組む。 考察を自分の言葉でできる 生徒。
16	欠席			欠席			
17	学習指導 ペア・グループ学習など交流 すること考えの深まりがで る授業		「～さんの…と言う考えに ～思いました」	学習指導	「交流」によって意見の深ま りを生むにはどうすればよい か。	国語の授業で「話し合い」の 単元を行う。 話し形を教える。 生徒自身に自分たちの話し 合いを評価させ、課題点をみ つけさせる。	「～さんの発表を聞いて～思 いました。」〇〇と〇〇の思 見をあわせて～」となってほ しい。

18	学習指導	全員が参加できる授業のあり方	子どもの興味や関心を引く教材 課題解決的な導入 既習の学習材の使用 机間指導・グループ活動・手引・モデル・授業外の働きかけ	全員が笑顔で参加でき、主体的に学ぶ集団となる	学習指導	子どもたちが意欲的に取り組むことのできる国語の授業の在り方。	毎時間達成感を味わう場面を。 教え合い、学び合い 実生活で使える、いかせる、必要な学習活動	自己肯定感 国語への前向きな指導 低学力の子どもとその他の子どもの共同的な学習が見られる 必要感が生まれる。
19	学習指導	生徒が意欲的に取り組む課題の設定	導入で自然現象の提示をし、生徒自身の疑問を引き出す。		学級経営	互いに聴き合う関係作り。	グループエンカウンター 子どもの言葉で学級通信紙に書いて読む 深さをいかに。	
20	学習指導	数学に苦手意識をもっている生徒への手立て	わからない生徒に対しての具体的な指示、声かけ	授業で習ったポイントを使ったらできたと思わせる。 練習したらできるようになる、もう一度やってみようと思うこの時間だけでもがんばったらできると思わせる 後からはなく今やろうと思う	学習指導	生徒全員が授業に集中し、答えを導くことに達成感を感じ、最後まであきらめず取り組む力を身につける。	生徒のレベルに合わせて数問の問題プリントを作成する。 レベルの高い子には、考える問題や応用問題を1問ずつ与える。 授業の中で生活でいかにせることや将来役に立つこと生徒が興味をもつようなキーワードを入れて説明したり、考えさせたりする。	レベルは違っても、今よりも解ける問題が増え、次の問題に進みたいと意欲的に数学に取り組む。 下位の生徒でもわかりたい、理解したいと思い自分からアクションを起こす。 上位の生徒は、今よりもっと難しい問題を解きたいと思い自分からアクションを起こす。
21	学習指導	歌唱で音楽表現を工夫する場面において、自分たちでどのように工夫したいか、主体的に考える力を身につけさせたい。	かんじシートを使い、自分の考えを一つは述べられるようにする。 これを活用し、2、3年になったらシートを使わなくても自分の考えを述べられるようにする。 ペアなど人数をもっと少なくした活動を取り入れる。工夫の場面だけでも、男女のグループを作る。		学習指導	歌唱の授業における表現活動と言語活動の充実化 創作・器楽領域の授業の充実化	歌唱の内容や情景を思い浮かばせ、曲に共感できるようにする。 よく使う用語や記号を掲示したり、紙板書をつくってその都度確認して、理解がスムーズになるようにする。 タイマーを使って時間を意識バート練習の具体的な手順練習の際にどういったことに気をつければよいか視点を与える。	説明だけでは理解しづらいことで印象に残りやすい、友達の見方を参考にしこのように書けばよい」というのがわかるようになる。
22	学習指導	書く力を育てる	まとめの工夫		生徒指導	携帯電話やゲーム機等のSNSの使い方指導	問題が発覚した際の対応 問題が起こる前の指導	継続的な指導の中で、使い方について深く考えられる生徒が増えれば、教師の見えないところでのやりとりに対して声をかけられる。
23	学習指導	理科の実験がスムーズにできていない。	黒板の左側に授業の流れを書く 聞く姿勢を作る	課題に向き合って授業ができており、4人グループ学習の場では教え合いができています。従って、上位層の知識の定着、下位層の学力向上に結びつく。	児童生徒	学級の男子が、周りの生徒からうらやまされている。	他教科、部活の顧問を含めての連携した授業。 道徳での教科選択 授業中無駄話はなかったか。 給食の配膳は自分のは自分で行い、お手伝い班には手伝わせる。	他者理解・他者への思いやりのある言動をしてほしい。 言動にすぐうつすのではなく、一歩立ち止まって考えてから。
24	学習指導	導入の在り方	身近な問題を取り上げる。 具体物実物をもっていく。 視覚教材の使用	生徒が問題に興味を示し「解きたい」と思うこと。	学習指導	生徒が進んで関わり合う、4人グループ学習の在り方	机を合わせたら1分以内に全グループの活動状況を把握する。 支援が必要なグループのみに声かけを行う。	問題解決のために、「4人グループでやりたい」と言える生徒 教師の支援なしに自分たちの力で問題を解き進めることができる。
25	学習指導	文法を理解し正しく書くことができない生徒への対応	単語・基本文の小テスト 単語の一部分の意味などを話し、生徒の興味をひきつける。	自分の考えを書く。 相手に聞きたいことを書く。	学習指導	生徒が自分の気持ちを表現できる効果的なコミュニケーションの在り方		
26	学習指導	生徒を集中して、授業に取り組ませるにはどうすればよいか。	授業規律	集中して取り組める。	学習指導	科学的思考力を高める授業の作り方。	なぜ学習するのか。	思考力を高めるためにも疑問に思わせる。 興味関心を高める。
27	学習指導	グループ活動を活発にする	まとめ役の設定 一人一人意見は必ず言うというルール作り スマールティチャーの設定、教え合い 生徒が自分の考えをまとめるのに十分な時間の設定	グループの生徒全員が自分の意見を持ち、それを交流しようとする。 グループでの話し合いから自分の考えをさらに深める。	学級経営	全員が何事にも一生懸命に取り組む、主体的に活動する生徒を育てる。 積極的に他者とかわる姿を目指して-	何かを始める前に、生徒に具体的な目標を立てさせる。 話し合い活動の積極的導入 教師がしっかりと評価してあげる。 学級でコミュニケーションを取り入れるような活動を積極的に行う。	
28	学習指導	導入部分で、生徒全員の目標に向けた意欲や興味を高めることができない。 音読の声が小さい。 書くことへの苦手意識。		ゴールに近づくために、ポイントを意識しながら積極的に読み、表現する生徒	学級経営	共感的理解があり、一人ひとりが安心して個性を発揮することのできる学級経営を目指す。		どんな意見であっても人が話している時には集中して、相手の立場に立ちながら聞くことができる子どもたち。 仲間の考えに興味を持ち、表現、交流することに積極的な子どもたち。
29	学習指導	生徒を飽きさせない授業 学力差への対応	ゲームなどを取り入れて集中力を維持する 暇そうなのは、できない子へ教えさせる。 ワークをやらせる。	最後まで集中して大事なところや授業のポイントはしっかりと理解できる生徒 最後まで意欲をもってたくさん頭を使う生徒 英語が得意な子も苦手な子もがんばる生徒	児童生徒	生徒一人ひとりに目を向けて理解してあげることがなかなかできない。	「今日はこの3人」というようにターゲットを決める。 不公平だと思われる程度に、個人を優先させる時間を作る。 仕事の効率を上げる、生徒と話している時はしっかりと集中する。 根拠を伝えられるときは遠慮せずにはっきりと叱る勇気を持つ。 嫌われることを恐れない。 傾聴力を鍛える。 一言でも声をかける。 もっと気軽に会話する。	先生は自分を見てくれているという気持ちを全員がもっている。 一人で悩まず先生に相談しようとする思える生徒。
30	学習指導	問題に取り組めない、解けない生徒への対応	ヒントを板書に工夫して書く 学び合い、グループ学習	積極的に問題に取り組める流れを理解し、問題を解くことができる	学習指導	基礎・基本能力の向上	授業のテンポをよくする。 必要となる取捨選択 評価問題を毎時間終結に基盤・基本を利用し、応用的な考え方ができる。	基本的な問題がしっかりと解け達成感を味わえる。 基礎・基本を利用し、応用的な考え方ができる。
31	学習指導	英語を話す力を定着させる。	指示の改善 warming upを前時の内容がいきるものに		学習指導	生徒が意欲的に学び、理解を向上させることのできる英語指導の在り方。	1文法項目あたり2時間。 1時間で文法を教え、2時間で本文指導となるが、2時間目に善事の復習を行う。 内容は低位の生徒にも配慮したものを工夫し、全員が「できた」という実感を得られるものにする。	「できる」→「やりたい」
32	学習指導	まとめ、自分の言葉で書けるようにする。	時間をたっぷり取る	生徒の言葉で自分の考えが書ける。発信できる。 教師がいなくても、生徒同士で活発な議論ができる生徒	生徒指導	提出物を出す、係の仕事を行うなど、基本的な責任感を養うための指導。	話し合う時間を設ける。 なぜ、係活動、清掃活動を行わなければならないのか。行わないとどうなるのか。	仕事を全うする責任感のある生徒。

33	学習指導	正しい資料の読み取りから多面的、多角的な思考をさせる授業の実践		課題解決のために必要な資料を自ら選択し、正しく読み取り、分析することをとおして、自分の考えをまとめられる生徒	学習指導	生徒の社会的事象への関心が高まるように、導入から終末まで、課題解決的な授業の実践	学習課題の設定 1時間ごとに何を学習するのか明確にして予想させる。 生徒主体の授業 生徒の「動き」がある授業	
34	学習指導	英語を使って自己表現をしたという意欲はあるが、自信がなくなっている	スモールステップで十分な口頭練習と相互評価 間違っても笑わない、合っている、合っていないではなくて発言してくれたことに対しての称賛	間違いを認めることなく全体の前で英語を使って堂々と自己表現ができる。 発表者に対しての共感、称賛	学習指導	自分の意見や考えを英語で表現できる生徒の育成 -話す一書きのサイクルの確立-	基本表現を十分口頭練習したのち、実生活における使用場面を考えさせ、状況を設定し自分の意見や考えを自分の言葉で話させたり書かせたりし、それらを共有し、評価するサイクルを確立する。 既習事項をその時間、その日限りのものとせず、類似表現や場面が出てきた際振り返らせたり思い出させたりさせ、繰り返し使用させることで定着をはかる。	自らの意見や考えを隠せず話したり書いたりする。 実際の使用場面で適切に表現できる。
35	学習指導	準備、片付けや集合を素早く行う	一人一人に役割を与える 番号をつけて指示をし、やることを明確にする。 走って移動することのよさを教える。	きびきびとした行動をすることができ、授業にメリハリが生まれる。	学習指導	保健体育に対して、意欲をもち達成感を味わうことができる。	細案を作り、その通り指示や説明を行う。 生徒のつまづきにあった補助具をつくる。	
36	学習指導	生徒が興味関心を持つ鑑賞の授業をするには	生徒に興味のある曲をアンケートする 視聴覚教材の活用 課題提示の工夫 選曲の吟味 何に注目して鑑賞すれば良いのか目線を		学習指導	生徒が興味関心をもつ鑑賞の授業の工夫	鑑賞の授業の意義を生徒に理解させる(様々な音楽に触れる、学んだことを表現にかす) 発問の工夫(鑑賞の視点、ワークシート) 生徒指導(導入に工夫)	
37	学習指導	生徒に自信をもたせるには	視覚情報で誰にでもわかりやすくする 選択肢を与える	自分の描きたいものが自信をもって表現できる。	学習指導	幹のある作品づくり	ワークシートの充実(テーマの設定、制作とのつながり)日々の意識づけ(美術室掲示のさらなる充実)	テーマに沿った、発想、創意工夫ができる。
38	学習指導	まとめ、ふりかえりの場面であきらむる子どもがほとんどである。	振り返りを個人として、シートやカードを配布して書かせる。	1時間の授業の中で子どもたち一人一人が何を学んだか、できるようになったかを、自分の言葉で説明し、書いて振り返られるようにする。	生徒指導	学校のルールを守ろうとしてそれを子どもたちが意識して、実行できるようになる指導。	対象の子どもと親とコミュニケーションをもっととる。 直すべき所を絞って一つずつクリアさせていく。	やるべきことをきちんとする。 周りから少しづつ信頼されるようにする。仲間意識が少しづつ高まっていく。そして高校へ行って新しい自分を意識して新生活をスタートする。
39	学習指導	展開時、目標に向けて個々の様々なつまづきをどう解消するか。	目標達成のため、段階的指導及び段階的教材の提示をする。 課題や現状に見合った集団の変形	みんなで動き、支え合い、みんなで喜びを分かち合える生徒たち。	学級経営	子どもたちの心に「火」をつけさせるには、「やる気」「根気」「勇気」の3つの気を育み燃えさせる。	教師側からの呼びかけ、手本となる行動、態度目に見える形で意識化をさせる 意図的に考えさせ発表させる機会をつくる。 みんなでよかった人を選ぶ。	考えを発表できる。
40	学習指導	一人一人に確かな力を身につけること	即時評価する機会を充実させる。 ポイントの示し方を工夫する。	一回の授業のたびに、達成感や充実感を感じて教室に戻っていく。 体育好き・運動好き	学習指導	体育嫌い、苦手な生徒に対する指導 -確実な技能を保障し、一人ひとりが主体的に活発な授業を展開するために-	実態把握 苦手な生徒を発見 変化や言葉、成功を評価 全体で共有する	苦手でも、不得意でも、体育がすき 失敗を恐れない。
41	学習指導	男女の関わりをしっかりとした授業にする。	グループの指定 男女で可能な課題設定 接触をもたない活動を行う	どんな単元、課題でも全員で取り組むことができるようになる。 自分だけでは気づかない視点に気づく。	学級経営	自己の役割を果たすことや、協力し合うことを通して学級の自治能力を高め団結する 学級経営	班長が毎日班員の役割を確認する。 行事について学級で目標を明確に表す。 教師による積極的な変化に対する声かけ。 帰りの会で班ごとに今日のMVPを発表する。	自分の役割と周りの役割を知り、何をしたら学級のためになるのかを考えることができる。 変化や成長を認め合う雰囲気生まれ、学級の団結が深まる 行事や授業にもよい影響が現れる。
42	学習指導	生徒の自発的に考える力を育てる。	グループ活動を行わせる スモールステップで既習事項を確認する。 板書計画を丁寧に行い、思考の流れを整える。	問いや課題を与えられたらまず挑戦してみる。 生徒を育てる。 数学を活用できるようになって欲しい。	学級経営	生徒が自分から気づき、行動できる学年の育成 気配りのできる集団	充実した取り組みを展開する。 現在行っているアンケートの活用 取り組み後の変化を調査し、取り組みのための取り組みにならない。	集団のために動ける生徒時に合わせた正しい行動ができる生徒
43	学習指導	活動の指示、説明、発問		すぐに活動には入れる。 プリントを見ずに相手の表情や等にも目を向けることができる	学習指導	下位層の生徒への支援 (英語への意欲、学力の向上)	パワーポイントを使用して(視覚的情報の活用) 日常生活と生徒に人気のある教材のバランス 見ているというのを伝え続ける	他の生徒とのスピードの差が縮まる。 がんばろうとする。 わからないことがわかる。 わからないと言える、聞きにこける
44		欠席			学習指導	興味を抱き、数学のよさを感じ、わかる授業のための工夫	週1回もしくわ定期的に数学の課題に取り組む。 教材研究 振り返り 定着の時間の確保 「よさ」を伝える 楽しさとは 毎時間の復習 わかったことを書かせる かかわり 1回1人	チャレンジしようとする気持ち やった分だけ結果につながる。 見えないところで数学が使われている。 解ける楽しさ

高等学校初任者研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧

	分類	課題(1月)	手立て(1月)	ゴール像(1月)
1	学習指導	生徒が主体的に学び、学習意欲を高められるような授業力向上	単元の中で最も伝えたい一問を選び、生徒主体の活動により取り組ませる。自力解決に重きをおく。 その時間に最低限伝えたいこと明確にし、必要な知識を与え考えさせる。 説明している時間、活動させている時間を計る。	頭を使う 自力で考えられるようになれば意欲も高まる。
2	学習指導	日々の授業に意欲的に取組、全国模試で結果を残すことができる。	1年生の範囲から出題が見られるので、授業の最初5分間を用いて小テストをおこなう。 小テストをやりっぱなしにしないように、ファイルを作成して自分の苦手な分野を見つけやすくする。 小テスト以外に「mol計算」を忘れさせないように、「日々の課題」を作成することで、計算を忘れさせないようにする。	昨年度の2年生の成績よりも高い成績をとる。 前日の自分の成績よりも高い成績をとることができる。
3	学習指導	教材研究・授業研究をしっかりとやり、ディベート活動を導入する。	ディベートの手法やよく使う表現について知識を深める。 生徒にとってわかりやすく、ディベートが楽しいものだと受け取ってもらえる導入方法を考える。 学年内の他の先生との共有、相談	あるテーマについて自分の考えをもって英語でコミュニケーションできるようにする。 あるテーマについて知識を深めることができる。
4	学習指導	理科に興味・関心をもち、身近な自然現象に対して自ら学ぼうとする生徒の育成。	導入の部分で、身近な自然現象と結びつく話題を入れる。 ニュースや新聞などを提供する事前にアンケートをとる、その結果を取り入れられるようにする。	自ら疑問をもち、それに対して解決することのできる力をもつ理科への興味・関心を高める。
5	学習指導	生徒を客観的に観察し、計画的に指導する。	事前アンケートの実施 メモ・ノートをつける。 学習プリントの工夫	
6	学習指導	授業力向上	授業の目的、ルールを明確にする。 この授業を通してどうなってほしいのか そのためにどのようなルールでどういう授業をおこなっていくかということを示す	目標達成に向けた取組をおこなう中で成長してほしい。
7	学習指導	授業力向上	1つの授業に対する言語活動のバリエーション 活動のねらいを伝える。 活動後のフォロー、確認テスト	英語学習に対して前向きになる。 英語を楽しいと思う、好きになる。
8	学習指導	生徒が考えて話せる授業づくり	言語活動の手法をいくつか試してみる。 良い発問の準備 他教科との連携	あきらめるをやめる。 考えてみようと思わせる。 考えを発表することへの抵抗感を減らす。
9	学習指導	生徒全員が意欲的に授業に参加し、公民科の楽しさを感じることができる。	実習に意欲的に取り組むことから活動を増やす。 自分自身の教材研究	社会の仕組みや課題について、自ら考え参加できる生徒

高等学校初任者研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧

10	学習指導	生徒にどう興味をもたせるか。	ポイントを絞って授業する。 視覚的にうったえる。 教材研究	実物を見ることで、興味がわく 生徒が増える。
11	学習指導	興味・関心のもてる教科指導 生徒主導型の授業の展開	サイクルを決めての自己目標 の設定 生徒自身が興味のある事柄を 用いてクラス全員で協議する。	全ての生徒が入学して良かった と思える姿 専門的に今以上に学んでみたい と思える姿
12	学習指導	生徒がわかりやすく楽しいと思 える授業づくり	言語活動の充実 生徒が参加できる授業 毎時間、何か変わったことをす る。 教材研究をしっかりとやる。 自己研修を続ける。 生徒自身が活動を振り返ること ができる工夫	生徒が前できなかったことが今 はできるようになったと実感。 自分にはこんな良い面があった んだと気付く。 もう少し本でも読んでみようか なと思う。 ”勉強って楽しい、もっと学ん でみた”と思える
13	学習指導	授業力向上	自分自身が専門的知識につい て理解を深める。 先輩の先生方にアドバイスをもら う。 自己評価シートに単元毎に書 かせてみる。 グループ学習について学ぶ。 ルール評価を明確にする。	関心・意欲をもって学習に取り 組んでいる。 自分の考えをもつことができる。 考えを発表することができる。 その分野について知識を深め ることができる。 教科書から離れた教材。
14	学習指導	数学の基礎・基本の確実な定 着	小学校の実践を学ぶ 具体物を作成 生徒の身近な題材 算数ドリルの実施 小中高の流れ	基礎・基本が身につく、数学を 楽しむことができる。
15	学習指導	アクティブラーニングによる授 業力改善をはかるために	一層の教材研究 随時研修を含め、一層の研修 参加	クラス全員が参加できる授業 授業が楽しいと思ってもらえる ような 模試でも点が取れる やればできるという喜び
16	学習指導	授業力の向上	どの時間に教材研究をするの か決めておく 早く来る、遅くまでやる。	専門性を高める。 進路の選択にもなる。
17	学習指導	生徒が自分の実生活、考え方、 生き方を考え、感じることができ いる。 保健授業の構成	保健問題等の時事を取り上 げ、意見交換をしたり、教師の メッセージを伝える時間を設 定。 教科書の内容を短時間で効率 よく、生徒に落とし込む方法。 評価基準の明確化→根拠のある 基準	今の自分の生活が将来の生 活、家族や社会との関わりにつ いて少し考えるようになる。 日々の行動や習慣が少しずつ 変わる。
18	学習指導	より深い教材研究、視覚にうっ たえた授業の展開	日々の業務で教材研究の時間 がなかなかとれていないため、 仕事の効率化をすれば、より深 い教材研究、わかりやすい授 業に近づけよう。	わかる。 自信につながる。
19	学習指導	全員が積極的に参加し、生徒 の発進力が向上する授業づくり	全員に役割を与える。 やらなければいけない状況をつ くり、一人ひとりにスポットがあ たるようにする。 教え合う場面の設定	自信を持っている。 責任感がある。 発信力がある。

高等学校初任者研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧

20	学習指導	生徒の興味・関心を引き寄せる授業力	社会に関心をもってもらう。 話し方の工夫 成功体験できる場面を設定する。 グループワークで意見を出せる場面を設定する。	自ら積極的に課題に取り組む。 授業に興味をもつ。 社会を「おもしろい」と思えるようになる。
21	学習指導	授業改善 資料・プリント作成 視覚化 アクティブラーニングへの移行	教科書の精読をおこない、重要視すべき点を洗い出し、資料作成に取り込む プログラム、ソフトウェアの利用方法を学び、動画作成に取り組む 生徒の関心を引くような授業を練り込んでいく	
22	学習指導	話す・聞く領域における、積極的な言語活動を取り入れた修行への挑戦。	ビグリオバトルを言語活動として扱う→他者に紹介する→発信の第一歩 好きな本を選び、紹介する手順、一番伝えたいところを順を追ってまとめる。 グループ全体での発表。	他者へ自分の意見をまとめて、積極的に発表、発信することができる。 読書に関する興味・関心がもてる。
23	学習指導	国語常識、言語能力習得のための授業実践	教科書の教材から少し離れてみる。 実用文の演習をする。 敬語については繰り返しワーク等で確認する。 グループで交流してみる。 先生方からアドバイスをいただく。	国語が他の教科の土台となる教科であり、日本人として必要な知識・言語を学ぶ場だと気づく。 社会人としての常識を身につけている。
24	学習指導	生徒が話し合いたくなるようなテーマの設定と話し合い活動能力の向上	話しをする、意見を共有することの重要性を述べる。 話し合い活動のルール設定をつくる、説明する、実施する。	
25	学習指導	生徒一人一人に合わせた教科指導	各大学の配点、ボーダーを調べる。 教員に聞く。	生徒一人一人が進路実現をする。
26	学習指導	生徒が授業を受けたときに意欲的に取り組めるようにする。	席替えをして話しやすいメンバーと入れ替える。 メリットを伝える。	グループワークにおいては、しっかりと意見を言え、意欲的に授業を受けることができる。
27	学習指導	生徒をあきさせない授業 生徒が主体的に動ける授業	「グループワーク」や「調べ学習」「フィールドワーク」を実施 ルールの定着(ICTの活用)	自ら学び問題を解決できる力がつく(問題解決能力の育成) 健康的な生活をおくれる力を身に付ける。
28	学習指導		語ること、話したいこと上手に展開するための知識や文法 上手に伝えるために、ジェスチャーや表情、間の取り方の指導。 小さく成功体験を積ませる。 音読、発話のトレーニング。	階段教室でピンマイクをつけ、原稿を見ずに英語で語りかける、スピーチする。
29	学習指導	授業が楽しい、そして成長のできる授業を展開する。	研修を通して他の先生方の実践例を参考にする。 自分自身がさらに教材研究を進める。 アンケートを生徒からとる。	生徒全員が少しでも成長したと思える。 笑いがあり授業の雰囲気が良い。

高等学校初任者研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧

30	学習指導	授業の向上 生徒がいかに関心をもたせるか	授業内容の精選(興味あることから、模試・入試まで) 生徒を動かす(教え合う、調べさせる) 見える課題の設定(教師から見せる)	授業に参加する姿に見える。 模試等での得点が向上する。
31	学習指導	地学の魅力をより多く探し、それを生徒へ伝えられるようにする。 教科の魅力	巡検等に多く参加し、身近な理科の話題を提供できるようにする。	楽しんで理科を学ぶ、理科が好きな子どもたち。
32	学習指導	知識・技術 自由な表現ができる授業 全員が制作に意欲的に取り組む、様々な知識	興味・関心を引くための導入の工夫 一つの制作で習得させたいものを整理し制作行程毎にわかりやすく説明をおこなう。 知識と制作を結びつける。	習得した知識をいかして、作品の制作へ取り組める。 自信をもって自分を表現できる。
33	学習指導	実生活につながる実践・演習のある授業	ロールプレイング 自らで課題設定→調べてまとめる(発表・共有) グループ学習 生徒に振り返り	実践を通してより保健の大切さについて認識させたい。 意欲的な生徒 自らの将来に役立てる(生徒が目標をもって生活)
34	学習指導	日本の経済社会に関心を持ち、意欲的に経済社会を知ろうとする生徒の育成	グループ調査 ペアワークによりコミュニケーション能力の向上 時事問題の小テスト	経済社会を知ることから、将来の進路実現に役立てられる。
35	学習指導	座学の授業力向上 自己の実技指導力の向上 自信をもって指導できるようになる。 検定全員合格	他教科の先生方から座学指導、板書技術を学ぶ。 本時でおこなう授業内容をしぼって授業をおこなう。 先を見た指導ができるようにしっかりと計画を立てる。 自信をもって指導できるように技術向上を目指す。 授業スタイルを変える。	検定全員合格(確かな技術の定着) 座学の授業へも意欲的に取り組む。
36	学習指導	資格指導の際、数字が出ている問題に対してのわかりやすい説明。	自分でもう一度、何回もといてみる。 授業時間以外を使用して生徒に教える。 他に指導している先生にアドバイスをさせていただく。	全員が理解し、問題を解けるようになり、資格を取得できるようになる。 自分でもできる人だという自信をもった生徒になる。
37	学習指導	生徒の興味・関心を高め、学習内容の定着を図る授業の実践	生徒に考えさせる発問の工夫をおこなう。 ペアワーク等の活動を取り入れ、生徒を動かす。(共有) 学習内容の振り返りをおこなう(教え合う、文章化を通して) 身近なものを題材とした研究の機会	生徒の学習に対する興味・関心を高める。 コミュニケーション力・伝える力わかる、理解できる喜びを味わってもらおう。
38	学習指導	生徒の興味関心を引く問題の設定。	問題を自分で設定するための知識を深めなければならない。 同僚との意見交換 他教科との連携 生活の中で視点を変える。	解いた問題と導いた答えに興味があることを実感できるようになり、「応用問題」「文章題」などへの苦手意識が薄くなる。
39	学習指導	ICT機器を活用した専門科目の授業実践	PPを使用して印しつけの手順を示す。 基礎縫いの動画作成。 生徒用振り返りシート、教員用振り返りシートの作成 年計を立てる。	作品の完成、知識・技術の習得理解力の向上 検定の全員合格 被服製作の楽しさを知り、日常生活にいかせる。

高等学校初任者研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧

40	学習指導	生徒が興味をもてる授業を展開する。	「今」の音楽を取り入れながら知識を深められる教材を精選する。	音楽の中から幅広い興味・関心をもつ生徒
41	学習指導	授業や実習の内容について、いかに生徒に興味をもたせるか。	実習においては、「要素の繰り返し」になることが多く、何をつくっているのかが生徒によく見えていない場合が多いのではないかと、最終的につくるものが何なのか見える課題生徒の目の前で、自分の技術をやって見せる。	要素・知識・技術をただ学習するのではなく、「こんなものをつくりたい」と自発的に考えることができる。 さらに、それを達成するために必要な、要素・知識・技術をより深く学ぼうとする。

特別支援学校初任者研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧

	分類	課題(1月)	手立て(1月)	ゴール像(1月)
1	学習指導	言葉の力を育てるための支援の工夫	言葉を覚えるための取組 毎日1つずつ新しく知った言葉を書き、教室に貼る。 国語の教科書から、知らない言葉を抜き出し、調べる。 文章を書くための取組 日記の形式を決める。	日記を毎日10行以上書けるようにする。
2	学習指導	わからない言葉を自ら調べようとする姿勢づくりについて	生徒の興味関心がある言葉を取り上げ提示する。	必要とする言葉のメモをとり、自ら調べようとする。
3	児童生徒理解	コミュニケーション力を高めるための支援のあり方。	言葉以外のコミュニケーションツールの活用 ソーシャルスキルトレーニングの実施	誰からも認められる生徒
4	学習指導	生徒が身近に感じるができる授業づくり (体験をしながら)	生徒の実態把握 経験の確認 現代社会、経済背景を知る 生徒の興味関心、経験のレベルについてのアンケート実施 担任の先生との情報交換・共通理解 保護者も巻き込んで実施してもらう。	学んだことを実生活にいかしている。 自分以外の人へも伝えている姿。
5	児童生徒理解	子どもの気持ちや意見をいかした指導の在り方	やるべきことの目標を決め、達成できたら楽しみな活動を入れる。 一日の時間割の中に児童の意見を取り入れられる時間をつくる。 楽しみができるとき、できないときの区別、メリットをしっかりとする。 楽しんで学べるような授業づくり	子どもが目標をもって、「できた」「わかった」「こうなってよかった」と思いながら学習に取り組む。 自分の気持ちや意見を適切に伝えることができる。 やるべきことがわかり、落ち着いて活動に取り組むことができる。
6	児童生徒理解	思いを話したり、最後まで聞いたりすることでコミュニケーションの喜びや楽しさを実感できる。	自分のことを話す機会をつくる。 短いものから少しずつ長くスモールステップで。 自立活動などの時間を使い”聞く聞くタイム”をし、最後まで聞く練習を継続的にこなす。 言葉遊びなどを通して語彙を増やす、残す。 相談タイムの場をつくる。 モデルを示す。	思いを最後まで話し伝えたり、他の人の話を聞き、満足や納得した上で話し合いができる。
7	学習指導	生徒たちが自分の思いを言葉で表現できるようになるための言語活動のあり方ー英語の授業実践を通してー	教師の説明だけでなく、生徒が英語を話す機会をたくさんつくる。 たとえ間違っても、発言できたこと、行動できたことを評価する。 生徒が興味のあることを英語で発表する機会を設ける。	自分の思いを言葉で周囲に伝えることができるようになる。 間違いや失敗を恐れず、“まずはやってみる”ということができるようになる。
8	学習指導	生徒が伸びていることを実感できる支援のあり方	クリアしやすい課題を設定し、自信をもたせる。 先生も失敗するということを示す。 成功者の成功までの過程を紹介する。	自分のよさがわかり、他者との違いを受け入れることができる。 他者を尊重し、相手のよさを認めることができる。

特別支援学校初任者研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧

9	児童生徒理解	窯業の授業において、技術指導と態度面の指導のあり方。	授業の始めにあいさつ練習をする。 できあがったときに報告させる機会をもつ。 学校全体での取組。	返事、挨拶、行動のスピードアップと意欲的な仕事にむかう姿勢を身につける。
10	児童生徒理解	他害行動のある生徒への指導のあり方	思い通りにいかない、嫌なことがあったときにどうすればよいのか一緒に考える。 こだわりを望ましいものにかえる。 我慢できたら称賛する。 落ち着ける環境づくり。	思い通りにいかない、嫌なことがあっても他害をしない。
11	児童生徒理解	支援を受け入れられない生徒への上手な支援の仕方	自分について知る機会を設ける。 友だちが支援を受けている様子を見る。 要求、依頼の言葉の指導 依頼できたとき、素直に支援が受けられたときはとにかく褒める。	支援を受け入れることで、生活の幅が広がる。 人間関係が豊かになる。
12	学級経営	子どもが「認めてもらえた」と感じることでできる学級づくり		「認められた」と感じることで、安心して気持ちで生活することができる。
13	児童生徒理解	一人で活動を進めるための支援の在り方	チェックシートでできたことを評価する。 手をかけないで依頼を待つ。 写真で行動を示す。	一つの活動が終わるまで黙々と取り組むことができる。
14	児童生徒理解	学校不適応生徒への指導と手立てについて	生活リズムチェック→自分で生活を振り返る 家庭、医療との連携→学校と家庭での生活の違いはないか、 服薬は必要ないか 情報の共有	自己理解ができる。
15	学習指導	わかる授業をつくる支援の在り方 ー学習環境づくりを通してー	学習環境の整理 チャイムの活用 場に応じた机の配置 視覚的掲示 学習規律の確認 目標の共有 ルールを視覚化 トークンシステム	やることがわかり、時間いっぱい授業に取り組む。
16	児童生徒理解	他害行動を減らすには代替行動をつくる。	代替物を用意する。 気持ちの絵カード	最高目標…言葉で自分の思いを伝える 最低目標…他害を代わりとなるものにかえることができる。
17	学習指導	マラソン大会へ参加するための取組の手立て。	トレーニングの計画実施 会場までの道順を調べて、一度行ってみる。 タイムスケジュールの立案 話しかけなど、他者との関わりの練習 費用の計算 振込用紙の書き方 活動計画の立案と決裁 保護者の承諾	感想による充実感をもつ。 計画の立案からマラソン大会へ参加するまで、自分で進めたことに気づき、自分でできることを確認できる。 この経験をもとに違う活動に意欲的にチャレンジできる。

特別支援学校初任者研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧

18	児童生徒理解	重度重複障がい児の友だちとの関わるることができる活動のあり方。	意図的なかかわり方の設定 共通の興味関心を見つける 学習場面以外でのかかわりから学習場面へ	友だちとのかかわりを楽しむ
19	児童生徒理解	発達段階に合わせた給食の指導について。	一口量に分ける。 ふざけている様子に反応をかえさせない。 遊びは始める前に別の話題をふる。	一口ずつ食べることができる。 遊ばずに食べることができる。
20	児童生徒理解	日常生活の時間における児童同士がコミュニケーションを図ることのできる指導のあり方。	教師が相手へどう伝えるか手本を示す。 意図的に2人でコミュニケーションを取らなければならない場面を設定する。	自分が手伝ってほしいときに自分から声をかけられる。 教室の中で児童同士が会話している。
21	学習指導	T1の先生がT2以下の先生方のつぶやき、発見をひろって盛り上がりや称賛の多い集団をめざして	集団指導の前には略案を出し、その中で山場のポイントやT2以下に求める場面を記すことを共有。 授業者の中にビデオ記録に特化した人を配置し、盛り上げポイントにしぼったところを録画し、短時間で成果や課題を振り返る。	集団学習でも、その時間の中で輝ける子が増える。→集団学習も楽しいな 集団の中で積極的に意思表示、表現できる子が増える。→楽しい、認められている。 他学年のよさに気づく→昼休みに一緒に遊びたいな。友好の広がり。他者理解の深まり。
22	学習指導	友だちと一緒に活動する楽しさを味わう生活単元学習について。	生活単元学習の中で、段階的に友だちと活動する場を設定する。 同じ教室の中で取り組む 分担したことを合わせて、一つのものを作る。 道具などを共有して使う。 「楽しい」「できた」「がんばった」を味わえるような活動の設定。	場を共有しながら、友だちと一緒に活動する。
23	児童生徒理解	知的障がいの児童の身体活動経験の拡大と充実	日常的な運動経験の積み重ね。 限られた環境での場の設定 ボディイメージを持たせる。	自分のボディイメージをもち、なめらかな身体活動ができる。
24	学習指導	楽しく充実感を感じることができる高等部の音楽の授業。	生徒の実態把握をして、生徒一人一人に又はグループに役割をあたえる。 発表の場をもうけ、目標に向かって練習する場を設定	仲間 自身をもって、音楽表現する姿 周囲に称賛される形で終わり達成感を味わう。
25	学級経営	協力して学級運営を進めていくには	他の教員との連携 普段の生徒が活動するのを見て、「共通点」を見つける。	クラスの生徒で一つの製作品を作る。
26	学習指導	一人一人が楽しめる図画工作の授業づくりについて	児童が”一人でできた”という経験を積み重ねる。 手指機能を育てる題材→繰り返し→”できた”体験につなげる 一人一人の実態に合わせた自発性を伸ばす支援の構築	様々な素材に抵抗することなく触れることができる。 自分から道具や材料に手をのばす姿が見られる。 一人で取り組むことができる。

中学校教職経験者5年研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧

	分類	課題(9月)	手立て(9月)	ゴール像(9月)
1	学習指導	自分の考えをしっかりともち、それらを発信していく生徒集団を育てる。	自分の意見や質問を言いやすい集団の雰囲気作り(毎回の授業での働きかけや学級会での話し合い活動の充実を図る。	
2	学習指導	資料の読み取り、それに基づいて、根拠を明らかにして、自分の考えを発表できる生徒の育成	資料読み取りの視点の学習を	自分の考えを、資料をもとに発表できる。 自分の考えや、他の生徒の発言を聞き、課題に対しての答えを導き出せる。 学習内容の定着が図れる。
3	学習指導	子どもに本時の明確な目標、目的意識をもたせていない。	子どもへの事前調査 目的意識・興味が高められる事象、事物の提示 子どもが知りたいと思える話題 実生活に即した内容	授業への意欲向上
4	学習指導	数学を学びたいという態度、姿勢を育てる。	個別に問題の解き方を指導する。 複式の進め方をより効率のよいものにする。 テストで今までより点数がとれるように、問題や出題形式を工夫する。	数学の問題を自ら解こうとする。
5	学習指導	授業に意欲的に取り組み自分の力をより高めようとする生徒を育てる。	できそうなレベルから挑戦し、段階的にクリアしていく できたことを周りで認め合いながら自分の努力に自信をもつ	より高いレベルに挑戦しようとする姿勢
6	学習指導	授業力の向上 授業規律の徹底		
7	学習指導	学習規律 解決のためにやるべき	集団行動、規律を他教科、全校で統一すること 練習方法を複数提示(選択させる)	たくましい取り組む生徒 全力で取り組む生徒
8	学習指導	課題設定の明確化	教え合い 終末の時間の確保 ノートチェック	目標をもって1時間にのぞみ、目標への達成度を自己評価することができる。
9	学習指導	書くこと	文章で使える言葉を一つでも増やすために、漢字スキルなどの語彙を全員で確認し、使用例を考えさせる。 授業中「書く」作業を必ず入れる(評価する)	文章を書くことに抵抗がない。 適切な表現を用いて文章を書くことができる。
10	学習指導	授業の終末時の本時の振り返りが中途半端になってしまう。	展開時の発問の吟味 生徒の活動形態の工夫 問題演習の時間と解答の時間の確保	意欲的に授業に取り組む 下位の生徒の基本の力の定着を高める
11	学習指導	学習課題の把握 設定の工夫	学習シートの工夫 分かりやすく簡潔な指示 時間の使い方の工夫 教材の工夫 進度のわかりやすさ 見通しをもたせること	限られた計画的に進められたという実感がもてる。
12	学習指導	使用場面を意識した言語活動	口頭練習をパターンプラクティスにするだけではなく、その時点から場面を意識 視覚教材	
13	学習指導	下位生徒への支援	別問題の準備 できないところまで戻って	できることを増やす。

14	学習指導	課題に対して、自分の力で解決しようと努力する生徒が育てられない。	学習の仕方を再度確認する(くり返し行うことが必要) このことが証明問題にもつながる(自分で組み立てる力) 説明を生徒が行う機会を多く設ける。	教科の枠を越えて自分の力で考えることができるようになる。
15	学習指導	基礎・基本の運動	予習を家庭学習などとして出し、授業の中に取り込む。(考える時間や、まとめる時間の確保) 単元毎でよいので、まとめの時間を設定する。	
16	学習指導	基礎・基本の定着 下位生徒にとらわれすぎて生徒を鍛えきれしていない。	わかる授業で基本を定着させた上で応用力をつける。	
17	学習指導	学習課題を明確にした上で、これから始まる授業への意欲づけが足りない。	ICT機器の活用 書くだけでなく作業を取り入れる。	
18	学習指導	互いの力を高めあえるグループ学習はどうあればよいか。	事前に観点を決める 役割をきめる 答えを一つにするのかみんなの意見を交流するのか。(目的を明確にする) 自分の考えをもたせてから話し合わせる。	目的意識をもって、意見を交流している。
19	学習指導	「できる」体育授業の展開	ワークシートに目標を記入させる。振り返らせる。 技能のポイントを明確に提示した上で学び合いを。 リーダー育成(教師からではなくリーダーが授業を規律を) 生徒がどこまでできるか、どこまでやらせるのか、こちら側の目標を高めに設定する。	
20	学習指導	一人残さず、全員ができるようにしていない。	1時間で必ず1回以上全員のノートを見る。 早くできた生徒に、できていない生徒へのヒントを出させるなどして、関わりをもたせる。	
21	学習指導	ゴールの共有と達成の振り返り	単元、年間を見通した課題の提示	
22	学習指導	終末で50分の授業の振り返りをきちんと行うこと	板書 黒板を見て何を学習したかがわかるように	
23	学習指導	学習課題の設定 学習者が自身のものとしてとらえ、意欲的に授業に参加できるように		
24	学習指導	その時間の学習課題をきちんと理解し、目標に向かって主体的に学ぶ力の育成		
25	学習指導	展開の中で、自分の思いをもち、伝え合う喜びを実感できる授業。	スモールステップとしては、生徒の言葉を教科通信という形で紹介し、自信をもたせる。 読み取りの核となる表現に立ち止まらせる手立て。 書く場、時間の設定と小グループによる意見交流の確保。 見通しのある授業。	わからなかったことを解決する面白さ。 わかりたい意欲 わかる喜びを感じさせる。

中学校教職経験者5年研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧

26	学習指導	授業の組み立て方	これを教える1時間と考えている内はだめ。 これを考えさせる1時間くらいに思って、展開にする。	自分たちでなぞを解決するおもしろさ。 考えることの楽しさ感じるのではないか。 学びの欲とはだれにでもあるもの。
27	学習指導	授業ー単位時間を見通して授業を組み立てる。 生徒からの反応を予想し、発問の投げかけ方を工夫する。 3年間を見通した教科指導。	授業の組み立てをノートにまとめる。 授業の後、振り返ってノートに赤ペンを入れる。 教材研究のときに「このことを教えるのはこの教材で」というものをきちんと決める。 言葉を増やすためのワークシートの作成	
28	学習指導	メタ認知、次時へのつながりを深める授業の振り返り	1時間1時間で教えることの精査 予想されるつまずきの洗い出し 不必要なつまずき回避するための手立てを考える。	振り返りのパターンについて勉強する。
29	学級経営	生徒の主体性	仕事を整理する	
30	学習指導	生徒が課題解決に向け意欲的に参加すること。	学習規律の徹底 学習課題の吟味 普段の生徒指導や学級経営、他の先生との情報交換 同教科、他教科の参観 生徒の気づきや疑問から	
31	学習指導	書ける生徒の育成	単語や基本文の定着を図る取り組み 自己表現の日常的な取組	単語や英文を正しく書くことができる。 書くことを楽しいと思える。 音楽学習である意識を変える。
32	学習指導	何を学習したのか生徒がはっきりと自分の言葉で言えるようにする。		
33	学習指導	既習事項の定着 課題を把握する力 主体的な発言・反応	定期的な小テストの実施 話し合い活動、自分の意見を考え、発表する場面の設定 生徒の生活や感心にそった課題設定	授業、課題に意欲的な姿勢をもつ、自己の考えをもつ。
34	学習指導	生徒が自分の言葉で、自分の考えを表現、説明する力の不足	個別で自分の意見を求めたり、考えたりする時間及びスペースを作る。 教師のつなぐ意識を常にもつ。 他者の考えにしっかりと耳を傾けられるよう学習規律の徹底	
35	学習指導	何を学ばせたいのか課題の明確化		わかる→おもしろい・学ぼう→深化 わからない→どこが、補充教える、教えられる(伝え合える)
36	学習指導	生徒主体の授業になっていない。	単元を見通した授業構想を立てる どこでじっくり考えさせたいのか、どこで話し合いをさせたいのか	楽しい、おもしろかった。
養1	学習指導	知識の提供に終始してしまう知識としての理解はあっても、行動変容にまで至らない。	テーマを決めて、考える、話し合う時間をもつ。 継続的にチェックする。	自分の頭で考えたこと、決定したことなので頭の中に残り、行動変容にいたる。 健康な大人に

中学校教職経験者5年研修「課題設定《自己研修のテーマ》」一覧

栄1	学習指導	自分の食生活について考える	必要な栄養量を知る。 過不足によって起こる弊害を知る。	
栄2	学習指導	子どもが主体的に考えることができる授業 分かりやすい授業であること。 自分の生活を見直し、行動を変えようとする意欲をもてる授業にすること。 子どもの発言をうまく活用する	よくない事例を示して、「なぜよくないのか」「どうすればよくなるのか」などを考えさせ、自分の生活に重ね合わせることができるようにする。	健康で丈夫な子どもになる。 健康で丈夫な大人になる。
栄3	学習指導	知識→行動へ移すことができ、子どもが主体的なわかる授業	型をやぶる。 特活についてより深く学ぶ。 話し合い活動を中心に授業を組み立てていく。 T1は担任、T2は栄養教諭で行う。	
栄4	学習指導	自分自身の課題に気づかせ、児童生徒が自己決定、行動変容できるような展開をする。	担任との連携 チェックシートの活用 学んだ内容を家庭に持ち帰り	
栄5	学習指導	児童自ら進んで実生活に生かそうとする意欲をもつための授業のあり方。	授業の内容がわかるワークシートへ、おうちの人からの欄を設ける。 「おやつ調べ」「朝食調べ」など家庭で実践させるための事後指導を行う。	自ら進んで改善しようという意欲をもつことができる。 家庭の意識が変容する。
栄6	学習指導	食育TT授業を効果的に行うために、どのように学級担任と連携すればよいか。	忙しい中の打合せだが、もっと担任の先生の話聞き、児童の実態の把握に努める。 授業の意図について詳しく説明する。	
栄7	学習指導	展開部分をどのようにしたらスマートに進めることができるか。	食育を進める上で、TTの打合せをする。 持ち時間の確認、実行	